

フィールドスコープ観望

仙台駐在員 N.O.

私は変光星観測を 10 年ちょっと継続して行なって居ます。観測のメイン機材は双眼鏡ですが、15cm の反射や 8.5cm のアポ屈折を使うこともあります。実際は、観測する変光星の光度によって、双眼鏡だけで行なったり屈折を使ったりと色々なのですが、ベランダでの観測とはいえ、機材の設置やアイピースの交換など、それなりに面倒なことが多くなって来るものです。あ、この星暗くなったから、屈折でないとダメだ・・・となってから機材を入れ変えたりするのも、この歳になると億劫になりがち。そんな悩みを解決してくれたのが（ある程度ですが）、なんとフィールドスコープなのです。それも、ズーム接眼レンズという、天文ファンならちょっと敬遠しがちなアイピースが付属したもの・・・

事の発端は、10 月に参加した仙台天文同好会での南会津合宿。ペンションに宿泊したのですが、そのオーナーの方（バリバリの天文ファンです）が、コーワのフィールドスコープ（口径 88mm のフローライト対物レンズのモデル）を紹介してくれたのです。曰く「これ 1 台で、星雲星団から惑星までこなせて便利。軽いし、ほぼ 90 ミリの口径だからね」との事。で、俄然興味が湧いてきたのですが、そのコーワのモデルは、定価ベースだと 33 万円の最上位機種。ニコンのものでも、20 万円近くになります。年金生活者の私にはとても手が出ません。で、ネットで探して見つけたのが、SVBONY という中国の会社の SV406P という、口径 80mm のスコープです。一応、対物レンズは ED となっていますが、驚くのはその価格です。なんと Amazon で 39.980 円なのです。ちょっと疑うような価格ですよ。しかも防水&ED 対物レンズだとうたっているのです。接眼レンズはアメリカンサイズなので、普通の望遠鏡用の接眼レンズが使えます。で、実際に届いてから使ってみました。



SVBONY SV406P フィールドスコープ

そう、買っちゃいました。39,980 円なら、もしハズレだったとしても諦めがつく（簡単では有りませんが）からです。届いてまず見たのは、遠方の景色。製品の仕様からわかっていたのですが、見かけ視界は 20 倍で 40 度程度、60 倍でも 60 度ちょい程度です。確かに低倍率の 20 倍でのみかけ視界は狭いです。普通の双眼鏡の見かけ視界は 50 度程度なので、覗いた時にすぐに「狭いかな」と感じてしまいました。色収差に関しては、このフィールドスコープ（F5.3 程度）を 6cmF5 のコルキット改造アクロマートと比べたところ、確かに青ハロがほとんど見えない事が確認できました。付属のズーム接眼レンズも、たる型や糸巻き型の収差はほとんど見られず、これは意外でした。本体価格を考えたら、本体付属のズーム接眼レンズとしては優秀だと思います。視野中心の像も良好ですが、アイポイントの位置が微妙なのが欠点でしょうか？ちょっとでも目の位置がズレると、像が乱れたり色付きが発生するのです。アイカップを伸ばした方が、アイポイントは決めやすいと感じました。

変光星観望では、低倍率で導入して目的の星が想定よりも暗い場合は、ズームする事で暗い比較星が見えてきて目測が可能になります。最大ズームでは 10 等星まで（仙台市内から）確認できました。やや星像は甘いのですが、変光星観測では星像をぼかして観測する事すら有るので、別に問題にはなりません。むしろアイピース交換の手間が省けて便利でした。それよりも、星雲星団観望での意外な楽しさを発見しました。低倍率で導入しても見えない星団が、ズームする事で視野に見えて来たり、淡い星雲の部分がズームと共に暗くなっていく背景から浮かび上がって来たりするのです。変光星観測の合間に、近くの星団を探してはズームイン！して観望。いや、本当に楽しいです。最初は、アイピースを望遠鏡用のものに交換して観望を・・・と考えていたのですが、もう付属のズーム 1 本で使っています。双眼鏡に 4 万円投資するなら、このスコープに 4 万円投資した方が良いとも思えますし、何と言ってもコスパが抜群なのです。ただし、天体観望に使う時には、若干ですが問題も有ります。

問題は、接眼部が 45 度の傾斜型なので、どうしても天頂付近は観望が辛くなる事、慣れないと目標に向け難いという事、そして有る程度しっかりした三脚とスムーズな動きが可能なビデオ雲台が有った方が良いという事です。私もビデオ雲台を購入して使っています。スコープの重さが約 1.5kg なので、3kg 程度の搭載可能なビデオ雲台と中型の三脚は必要でしょう。これらが準備できるなら、晴れたら室内からひょいと持ち出して、80mm の口径を活かした観望を手軽に楽しむ事が出来ます。自転車にバックパックというプチ観望遠征も OK ですし、暗い空の下への小旅行等に持参して、本格的な観望も楽しめます。もちろん、アイピース交換は不要ですし、重い望遠鏡用の三脚や架台を持ち歩く必要も有りません。

今まで気にもしていなかったフィールドスコープですが、SV406P は、私の変光星観測においては、双眼鏡以上に活躍する機材になると思います。